

名前／岩崎華凜(いわさきかりん)  
年齢／17歳  
身長／166cm  
体重／43kg  
BWH／91・49・89

高校生。大人しい、普通の女の子。アレな世の中を憂いつつ、それでも日常を楽しんで生きている、リア充女子高生。学校の成績は普通。運動は苦手では無いが、好きでも無い。観戦するのは普通に好き。好きな音楽はR&B。化粧はしない。ピアスも痛そうだから開けない。入れ墨とか絶対に嫌。スタイルが良く、自分がある程度美人だと自覚している。友達も居る。皆、今時の子。全員、彼氏持ち。無論、華凜にも居る。普通の大学に通う、普通の大学生。今時の若者。結構大好き。付き合ってからすぐにセックスした。付き合うのも、セックスも初めてだが、抵抗は無し。結構楽しかったし、気持ち良かった。何より、彼氏の事が本気で好きになった。それまでは、『格好良いな』位に思っていたのが、『セックスしたい！』『この人の子供産みたい！』とまで思うようになった。学校に居ても、家に居ても、いつも彼氏に『おっぱい見せたい』と思っている。おっぱいに自信あり。91cmのFカップという、高校生離れした巨乳。形も良く、自分でも見るとムラムラするくらいである。いつも彼氏が、夢中でむしゃぶりついて来るので、可愛くて、思い出すとオナってしまう。そんな普通の女の子だった。

彼氏とのデートの帰り、見知らぬ男達に拉致され、殺害される。犯行は、頭のおかしい異常者で、人を犯し、殺し、さらに死体を犯す事に快感を感じる、サイコパスだった。人並外れた美貌の華凜は、ただでは殺されず、凌辱され、殺される様子を、全て撮影され、死体を犯されまくる様子までも、すべて録画された。そしてその映像は、ネットに流出し、多くのマニアを喜ばせる事となった。



「待ったか？華凛」

「今来たココ」

放課後、彼氏と待ち合わせる華凛。制服姿でデートである。正直、家に帰って着替える時間も惜しい。華凛は、平静を装ってはいるが、彼氏の事は大好きだった。クール系女子なので、表情には出ない。

「制服姿、可愛いぜ」

「うん、知ってる」

華凛は、花も恥じらうJK。制服が一番似合っている事は自覚があった。他の女には無い自分だけの魅力だと思っている。『女子高生がカノジョで嬉しいでしょ？』とでも言わんばかりである。

「どこ行く？」

「カラオケボックス。それかホテル」

クール系女子である華凛は、人前でイチャつくのは抵抗がある。人目に付かない場所が良かった

「セックスしたいのか？エッチだな華凛は」

言われて、僅かに頬を染める。凶星だった。華凛は、スタイル抜群の美少女。好きな相手には、裸を見せたい。そんな考えの今時の少女だった。

「したくないならいい」

不満そうに、歩き出す華凛。男が後を追う。

「……………」

男が、華凛の手を取り、目的地を告げる。ラブホである。

「……………エッチ」

表情一つ変えずに、言い放つ。しかし心の中では小躍りしていた。『SEX…！カレとラブラブSEX…！やった…！もうメチャエロい女になるよ、見てて…！』

最近、カレの事が好き過ぎて、いつもエロい事ばかり考えている。シ〇クラボのAVとか見て、これいい、とか思いながら。

『エッチな下着、さっき着て来たの。見て。でもどうせすぐ脱がせておっぱい揉むんでしょ。男の火っておっぱい好きだよ。いいけど』

特に会話も無く、ホテルまでの道を歩く。頭の中では、どんなセックスするか、考えを巡らせているのだった。クールな佇まいとは裏腹に、セックス大好き淫乱娘である。

「何か言いたい事はあるか？」

「ちんぽ」

基本、無口な華凛。男が問い掛ける事で、会話が成立する。しかしいきなり下品な事を言った。

「エッチだな、華凛は」

「どうして。可愛いじゃない、おちんちん」

平然と言い放つ華凛。いつもセックスの時散々言わされるので、先手を打つ華凛だった。

「華凜、今日も可愛いな」

「……有難う」

いつも、突然こういう事を言う男に面食らう華凜。動揺している所を見せたくないの、平静を装い、素直にお礼を言う。後で、彼の事も褒めあげよう、と思う。

「んっ……」

男に抱き締められ、そのままキス。高層マンションから見える夜景が、ロマンチックだった。まるで、映画のワンシーンのようだ。女子高生である自分が、男と二人きりで、裸で抱き合っている。凄く背徳的で、幸せ一杯だった。

今日は、彼氏の家で自宅デート。シャワーを浴びて、寝室へ。当然、素っ裸である。これからセックスをするのに、服を着ている必要は無い。何より、彼に裸を見せたかった。恋する女の子は、いつだって好きな男に裸を見て欲しい。

『お母さんに知られたら怒られるな……』

『大好き………だいすき………』

れろれろと舌を絡めながら、男への愛情を実感する。華凜は、見た目は大人しいが、情熱的で淫らな女だった。

『まあいいや。結婚すればいいんだし。…結婚してくれるよね？私はいいよ』

「あん……おちんちん………凄いい……」

くちゅっ………くちゅっ………ぱん、ぱん！

ぐっ、ぐっ、と押し込まれ、引き抜かれるチンポの感触に、甘い声を出して喘ぐ。まるで自分は、カレ専属のAV女優になった気分だった。

恋する乙女の華凜は、大好きな彼と結婚して、毎日セックスする日々を夢見ていた。

「え……何？きやつ……！！」

彼氏の家からの帰り道。突然目の前に現れたワゴン車。声を上げる間も無く連れ込まれ、そのまま見知らぬ場所まで誘拐される。真昼間、堂々とした犯行だった。

「ったく、楽しみやがって…羨ましいったらねーな」

『あんっ……！あんっ……！  
凄い、あんっ……！うん、好き、  
大好き……！ああ——っ……！』

モニターには、先ほどまでの情事が、録画されていた。盗撮である。華凜は、その時から目を付けられていたのだ。

「俺達にも見せてくれよ、その彼氏のためだけにあるエロい身体をよ……！」

「いっ……、いや……」

華凜は、クール系女子だが、怖いものが無い訳では無い。か弱い普通の女の子だった。屈強な犯罪者数人を前にして、抵抗など出来る筈が無い。

「さあ、リアル女子高生レイプAVだぜ……！！」

華凜の悲痛な悲鳴も、人気の無い場所では、誰の耳にも届かなかった。

「……………っ」

繰り返される、凌辱。膣内への容赦無い中出し射精。僅か数時間で、華凜の精神は崩壊。全く抵抗する意思を無くし、されるがままに犯される人形と化した。大好きな彼氏としか、セックスをした事が無いのである。過酷なレイプに耐えられる筈が無い。

「しょーがねーな、コレ使うか。高けーのによまったぐ……」

「……っ！……あう………あは、何……何これ凄い………ああ……ああん！」

華凜は、覚醒剤を打たれ、無理矢理奮い立たされる。そして、さらに激しいレイプを受け続けた。

「はうっ……！あがっ……！あぐう……！あっ……！げえ……！」

首にロープを巻かれ、反宙吊りになる華凜。その状態で、下から騎乗位で犯される。もう体力の限界で、自分で身体を起こす事も出来なかった。

ぎゅっ……！ぎゅし……！  
ぎし……！ぎし……！

「ほらほら、死んじまうぜ、自分で立てよ。  
首が締まるぜ、どんどん」

カメラを回す男が、華凜の首に繋がったロープを引く。苦しそうに、空気を求めて喘ぐ華凜。拷問に近い凌辱行為を、全て撮影していた。

『ぐっ……！ぐるじ……！  
じ……！じまるっ……！  
ぐびが……っ！いぎが  
ぐるじー……ああ……  
ぎ……ぎもじい……、  
…………っ、…………っ』

シャブによる快楽と、呼吸困難による酸素欠乏で、華凜の脳は、死の危機による生殖本能の爆発的性欲増大に、未だかつて無い快楽の世界へと突入していた。

「ほら、彼氏でも無い男にオッパイ見せてるぜ、どんな気持ちだ？」

「……………！……………っ……！  
おっぱい……い……見て……！  
オッパイ……！オッパイ男の人に  
見られて……るう……！ああ……  
お母さん……に……怒られ……  
ああ…オッパイ見てセックスう…」

華凜は、もう正気を失い、子孫を残すために、男の精液を求めるだけのセックスマシンと化していた。

「こんなエロいオッパイしやがってよ、親が泣くぜ……！なあほら！  
超デカくてエロい、セックスにしか使えない女子高生エロオッパイ！  
そのオッパイで彼氏を何度も射精させて来たんだろ？望みどおり  
妊娠させてやるぜ！このセックス大好き露出狂淫乱女子高生が！！」

華凜は、見知らぬ男に乳房を見せて、その嬉しさと興奮に、自分をレイプする男と同時に絶頂に達した。

「まだイケるじゃんか、次俺な」

「あは……ちんぽ………もっと見てオツパイ……全部撮って……」

華凜は、裸で恋人でも無い男とセックスをしている様子を撮影されているにも拘らず、それに喜びを感じていた。シャブの影響で、女としての悦びだけを感じる生き物と化している。乳房を見られるなど、女として嬉しいだけだった。

「オツパイ見られて嬉しいなんて、将来が心配だぜ、この女子高生。ま、将来何てねーけどな」

犯罪行為を平気でしている男達。華凜を生かして返すつもりなど全く無かった。

「ぐえ……」

宙吊りのまま、再び下から犯される華凜。首絞めセックスに、すっかり虜だった。

「さあて、これからが本番だぜ、エロJK」

「……………っ！！」

華凜の身体が、天井に向かって引っ張られる。今までで一番激しい締め付けだった。もう完全に命の危機に陥る類の拷問である。しかし、既にシャブとセックスで発狂し掛けている華凜にとっては、それは快楽を伴う、甘いセックスだった。

「ああ……気持ちいい……！JKの身体ってなんでこんなにイイんだろうな」

「こいつが特別イイ女だってだけだけどな。あーあオツパイ揺らしてアシアン喘ぎやがって。彼氏の前でも無いのに。男なら誰でもいいのか？この淫乱女子高生が」

「こんだけ美人なんだ。見られるだけで気持ちいいんだろうよ。女が綺麗なのは男とセックスするためだもん」

華凜は、男達の前で首を絞められながら、身体を揺らし、声を詰まらせながら喘いだ。

「オラいくぜ、覚悟しな……！カメラ回ってるか？これ重要なシーンだぜ……！！」

男は、気持ち良さそうに腰を振りながら、快楽に喘ぐ華凜の腕を掴み、地面に向かって引く。中腰になった状態で首を絞められているため、その締りが強くなる。ロープが締め、気道が塞がれ、かろうじて僅かに可能だった呼吸が、完全に不可能になる。

「……………！？—っ！！—っ……！！」

苦悶に身悶えする華凜。それまでの快楽溢れる首絞めプレイと違い、死へと向かう首吊りだった。男は、華凜をこのまま殺害するつもりだった。男達は、凌辱だけでなく、女を犯しながら殺し、その死体をも犯すのが趣味の、異常者だった。最初から、華凜を殺すつもりで拉致したのだ。

『し、死んじゃう……！！し、死んじゃうよお……！！私、オッパイ見られながら死ぬう！！』

体力の限界が来ている華凜は、それに抵抗する力すら残っていなかった、ただ男達に、されるがままに、犯され、裸体を晒し、それを見られ、撮影されていた。

「なあ、どんな気持ちだ？大好きな彼氏とのラブラブデートと甘いセックスの後に、見知らぬ男達に誘拐されて犯されて。シャブ漬けにされて、オッパイ見せながら死ぬんだぜ？そんな可愛いのに。これからの人生、きっといい事も沢山あったらうによ。これから今すぐ死ぬんだぜお前」

「っ！！っ！！っ！！っ！！」

男からの言葉と、明確なる殺意に、華凜は戦慄しつつも、更にすさまじい快楽を感じる。命の危機から、加速する性欲。脳内物質の過剰分泌により、シャブの効果と合わさって、この世のものとは思えない快楽に支配されていた。

『あん死ぬっ！！殺されちゃうっ！！カレともう会えないっ！！だって私、これからこのエッチな犯罪者に犯されながら殺されて！オッパイ見せながら死体を犯されるの！！それも全部カメラに撮られてネットに流されるの！カレも見るのきっと！お父さんもお母さんも！学校の皆も！こないだ告白して来た杉山くんも！私の裸もセックスもオッパイ丸出しの死体も全部見るきっと！ああん凄いい！凄いい！凄いい！凄いい！ああああ！！もうイクう！もうイクうううう——ツッ！！』

華凜は、加速する思考に飲まれながら、死へと向かいつつ、最高の快楽の世界へと身を委ねていた。

ぱん！ぱん！ぱん！ぎゅっ…、ぎし…！がくっ、がくっ、がくっ！

快樂の波に飲まれながら、男に犯され、身体を人形のように揺らす華凜。  
断末魔の痙攣に、身を震わせたのを最後に、一切の反応を示さなくなった。  
時折、脊髄反射で、身体をびくん！と痙攣させる。絶頂に達しながら、華凜は  
男達の目の前で、その美しい裸体を晒しながら、絶命していた。

「ああ、死んだのか？死んだぜこいつ！ついさっきまで、  
つい数分前まで生きてたのにっ！！セックスしながら  
イキやがった！オッパイ見せながらセックスしたまま！  
チンポハメながら死にやがった！！ああ最高！！もう  
イク！我慢出来ねえ！！ああいく！！  
あ——っ！！」

びゅくん！！

男は、今まさに絶命し、儚い命を散らした  
美貌の女子高生の死体を前に、最高の快樂を  
感じ、一気に達する。男は殺人鬼であり、女の  
死ぬ瞬間が、最も興奮する異常者だった。

「あー出るっ……！すっげー出るっ……！！  
もう小便みたいに出るぜ！！ああ……！！」

死体と化した華凜に、大量の精液を注ぎ込む男。  
否認する気など皆無の、容赦無い膣内射精だった。  
最も、もう華凜は死んでいるので、妊娠する可能性  
など皆無だったが。

「カレシでも無い男にゴム無しで射精されてるのに、  
何にも言わね。こいつどんだけ淫乱なんだよ」

「死んでんだから当たり前ーだろ」

目の前で、女子高生が殺害されているというのに、平然とカメラを回す男。  
今まで何度も、女を拉致し、犯し、殺害し、死体を凌辱し、その様子を  
撮影して、全世界に公開して来たのだ。もう殺人など、何も感じない。

「さあて、今度は俺か。死体って好きなんだよな、生きてる女より」

「さすがキ○ガイ」

女を犯しながら殺す事に、快樂を感じる男も、十分キ○ガイだった。

その後も、死体を犯され続ける華凜。その若さ溢れる魅力的な身体は、死体となっても男達を  
勃起させ、何度も犯されまくる。その様子は、全て撮影されていた。のちに、ネットに流すために。  
華凜の凌辱&殺害シーンは、全世界の人間が目撃する事となった。

ぎし……ぎし……  
宙吊りとなり、天井からぶら下がる華凜。  
その美しい裸体を、男達の前に、惜しげも  
無く晒していた。

「おいおい、彼氏でも無い男にそんな  
エロい裸見せていいのか？ 仮にもまだ  
未成年だろ」

すでに絶命した華凜は、もう何も言わず、  
身体を隠もしない。死んだ人間に、  
羞恥心など無い。裸を見せていても、  
恥じらう事も無かった。

「形のいいオツパイだな、まるで芸術品だぜ。  
こりゃ是非全世界の男に見せてやらなきゃだな」

美少女の死体の乳房を、  
余す事無く撮影する男。

「オツパイもお尻も陰毛も見せて、  
堂々としてるなんて、よっぽど  
ルックスに自信があるんだな。  
流石は美少女だぜ」

「死んでるんだから  
身体を隠さないのは  
普通の事だろうが」

すでに華凜を犯し飽きた  
男達は、華凜のその  
女子高生離れたエロ  
ボディを鑑賞し、楽しむ  
事にしたようだった。

「見てるだけでイケる……！！ ああ……！  
出るっ！ ザーメン出るっ！！ あっ！！」

びゅるっ！！ びゅっ！！ どびゅっ……！！

「もう大人だよな、この腰。いい尻だぜ……！  
子供産むための身体って感じだな」

「男をボッキさせるのに特化した身体って事な」

男達は、無抵抗の華凜の身体に、精液を吐き掛けて行った。

『何コレ、流出？岩崎さんだよ。隣の人誰？カレシ？ヤバいじゃんこれ、ホテルだよ』

『あれ、岩崎じゃん。盗撮か？誰が撮ったんだこんなの』

『二人とも素っ裸じゃん！ラブホデートだよこれ！』

『やっぱ可愛いな。折角映像有るんだしシヨろ。普段は直視する事さえ憚られるからな。あー顔だけでヌケる。クラスの集合写真に何度ぶっ掛けたか…』

『ガッコにバレたら超ヤバいんじゃ』

『おっぱいでけーな…カレシにだけ見せるんだろーな。羨ましい…』

『あーあ、オッパイほとんど見えてんじゃん。これ男共がジゴシコしまくるよきっと』

『私達だってほとんど見た事無いのにね』

『ああ……岩崎のオッパイエロいっ……！！Fカップはある……！ああイク！出る！あっ！！』

『あ、2年の岩崎ちゃんだ。可愛いなー、読みたい』

『修学旅行の時チラッと見たけど、キレイなおっぱいだったな。カレシに揉ませまくってるんだろーな』

『カレシ居るって噂だよ』

『ってコレ、オッパイ見えてんじゃん！』

『誰が撮ったの？超エロい……！そう、こんな感じだった、岩崎さんの胸。やっぱこれ本人？』

『腰細せー……何だこのエロい腰。誘ってんのか？スカート短すぎだろ。足の付け根までギリギリだぜ』

「太腿エロい……！脚フェチには堪んねえ……！ああ、この太腿にザーメンぶっ掛けたい……！！ああ出る！んっ！！』

『ああ……岩崎……！この太腿掴んでパンパンしてー……！！ポッキンポ根元まで突き込んでビュって射精してー……！！』

『あーヤバ……始めちゃった……。え……？コレマジでやってんの？凄い……！岩崎ちゃんのマジセックスだ……！！』

『あー……あんな声出すんだ岩崎さん……。普段大人しいのにね……。あ、腰振ってる。エロ…』

「うわ、岩崎のマッパだ！マジスゲー！」

『窓からのセックス盗撮か？  
カーテンなんか開けるから』

「超シコれる！同級生の！クラスメイトの  
裸！オッパイ丸出し！エロ本みてーな  
裸だ！ああマン毛まで見えてる…！！」

『見られて興奮してたんだろーな、  
こんだけ美大だし、露出癖あんだろ』

「オッパイでけーって  
思ってたけど形も  
いいな…！乳首  
ピンクだぜ、最高』

『岩崎さん、綺麗だな…  
やっぱり女の子って、恋を  
してる時が一番可愛いよね。  
あーとろんとしてる、あの  
クールな岩崎さんが…』

『これが彼氏だけの  
モノって勿体ねーな』

『ずっとキスしてるね。  
あーラブラブ。  
ちょー羨まし。  
あ、お尻触った』

『お尻触られても、おっぱい触られても、  
嬉しそうにしてるね。やっぱり岩崎さんも  
女の子なんだなー』

『よく見えねー。オッパイ見せろよ彼氏、邪魔すんな』

『AVじゃないんだから普通こうだよな。  
カメラ気にする必要ないんだから。  
体位も最初から最後まで変えないし。  
相手が目の前に居ればいいんだから』

『ヘア見えてるのにいやらしくない。  
神々しい感じ。やっぱりキレイだわ岩崎さん。  
カレシのためだけの身体って感じ』

『最近岩崎さん、学校来てないらしいよ』

『やっぱマジか……あの映像』

『フェイクじゃ無かったんだ……  
ホントにあるんだね、  
ああいう事』

『死んでるのに、死体とは思えないエロさだな、  
岩崎の裸……ああ……不謹慎だけどボッキする……!』

華凜のスナッフ映像は、全世界に向かって  
無償で発信された。当然、ネットに触れるのが  
当たり前の若者達にも、それを目撃する  
機会があった。その中には、華凜と同じ  
学校の生徒も居るのである。

『可哀想だよな……あんな美人だった  
ばっかりに頭おかしいのに狙われて』

口々に噂するクラスメイト達。しかし、  
華凜のその美しい裸体を晒しつつも、  
絶命していく姿に、官能を感じていた  
のも事実だった。華凜は、美少女。  
その死に姿も、美し過ぎたのである。

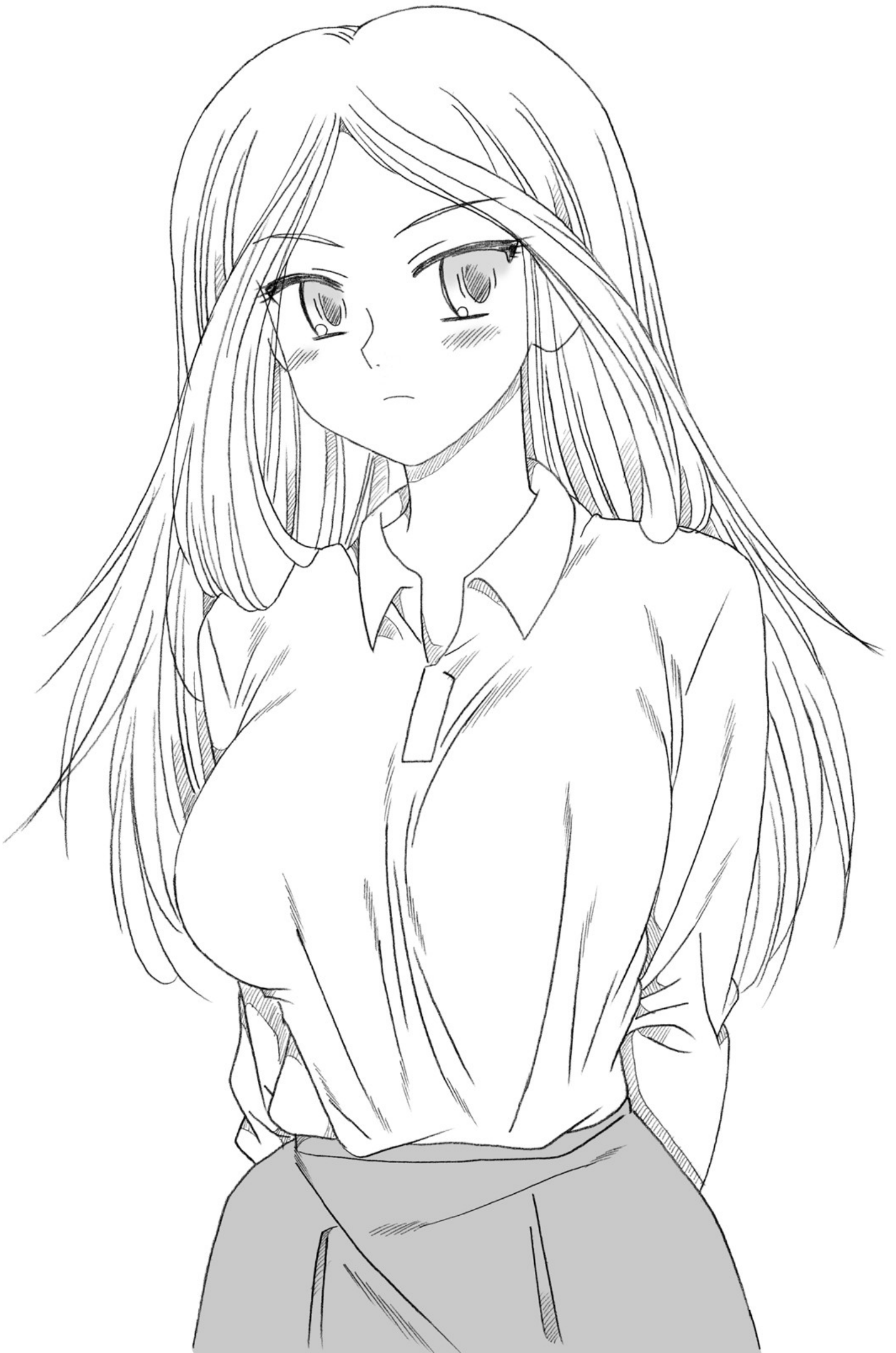
『あんな事件に巻き込まれなければ、  
俺が岩崎の裸とか見る機会、一生  
なかっただろうしな』

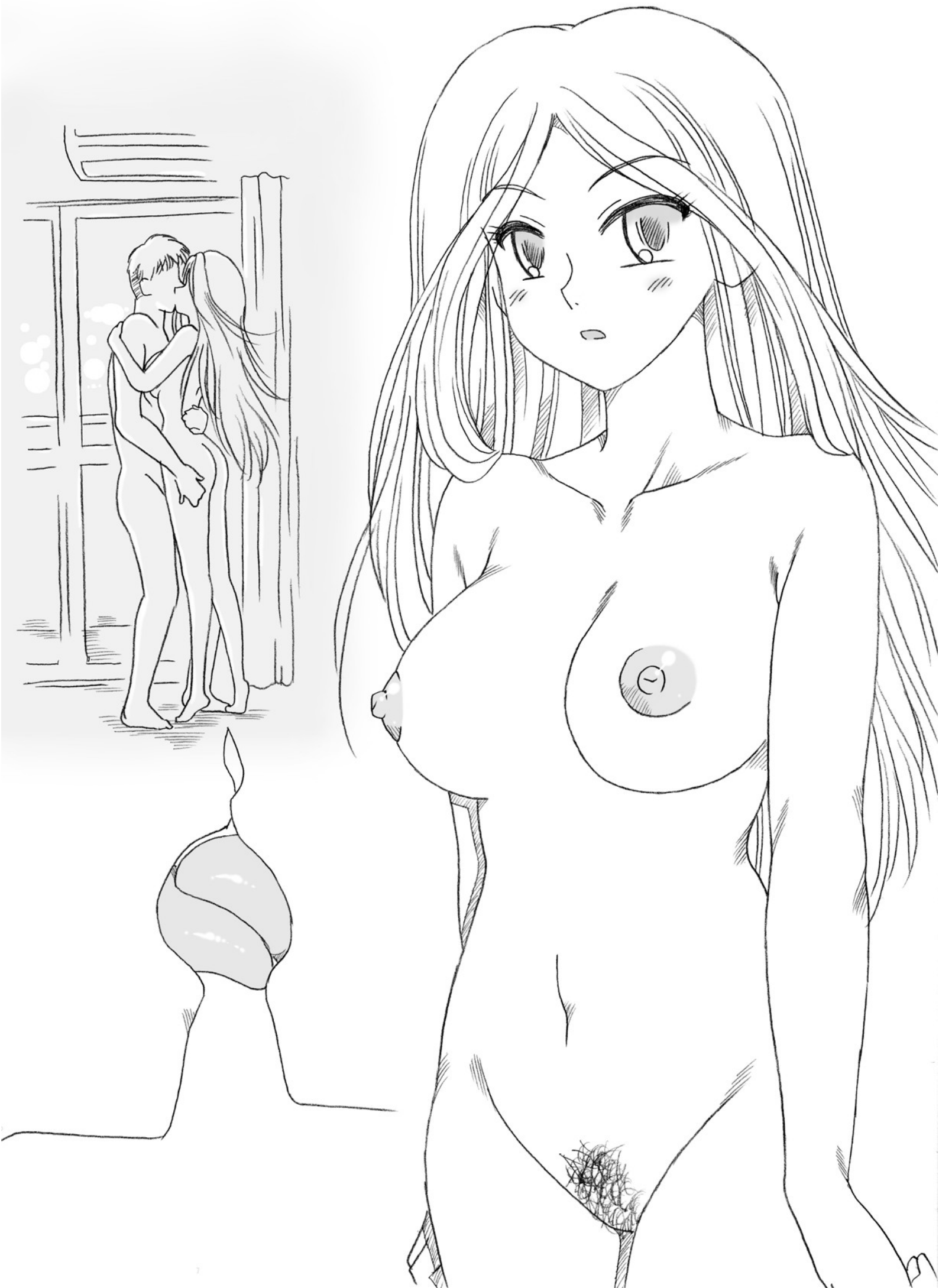
華凜は、男達に誘拐され、凌辱され、  
殺害され、死体を犯されまくる事で、  
世界中の人間にズリネタとしてその  
美貌を見て貰う事となった。本来ならば、  
ほんの僅かな男しか見る事の叶わない、  
美少女、華凜の美し過ぎる裸体を。

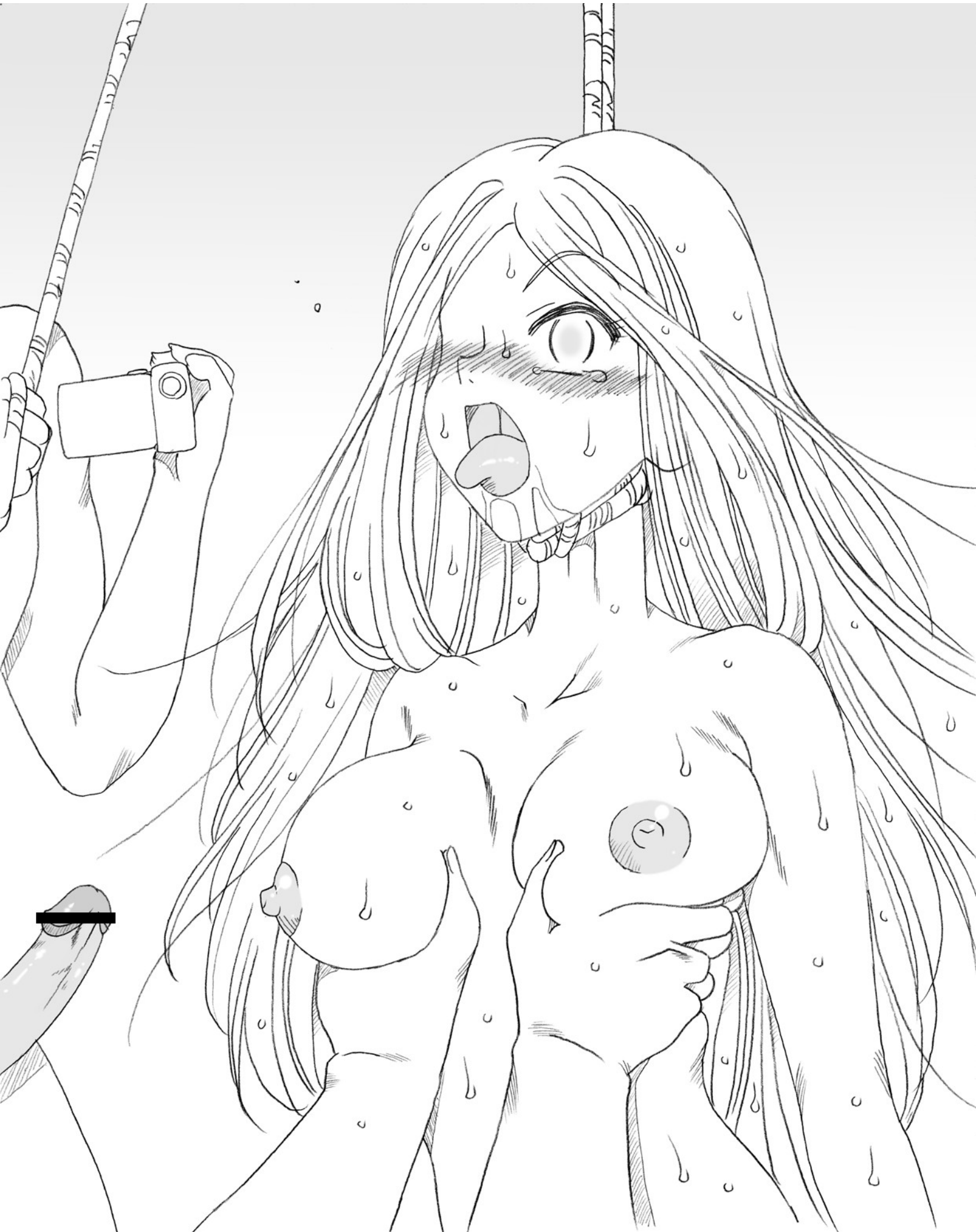
『ああ……岩崎……! 岩崎の死体の画像に  
ぶっ掛けるよ!! ああ好きだ! 岩崎!!  
ああっ!!』

『岩崎の尻……! 生の尻だ……!  
すっげーエロい想像以上だ……!  
ソッコーイク!! ああっ!!』

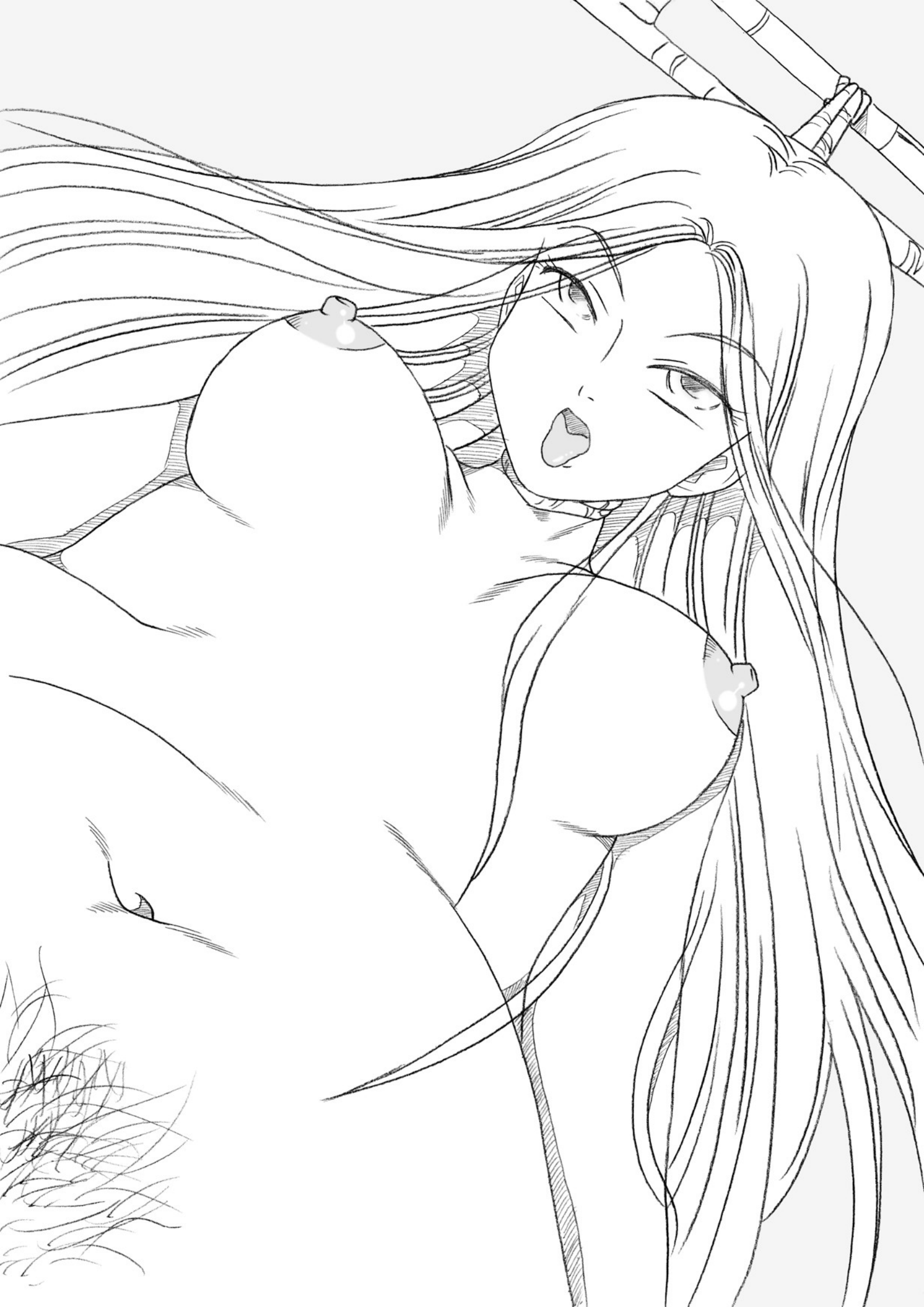
美少女の華凜に想いを寄せる男子達は、ほぼ全員が  
華凜の死体を見て勃起し、オナニーをし、射精した。

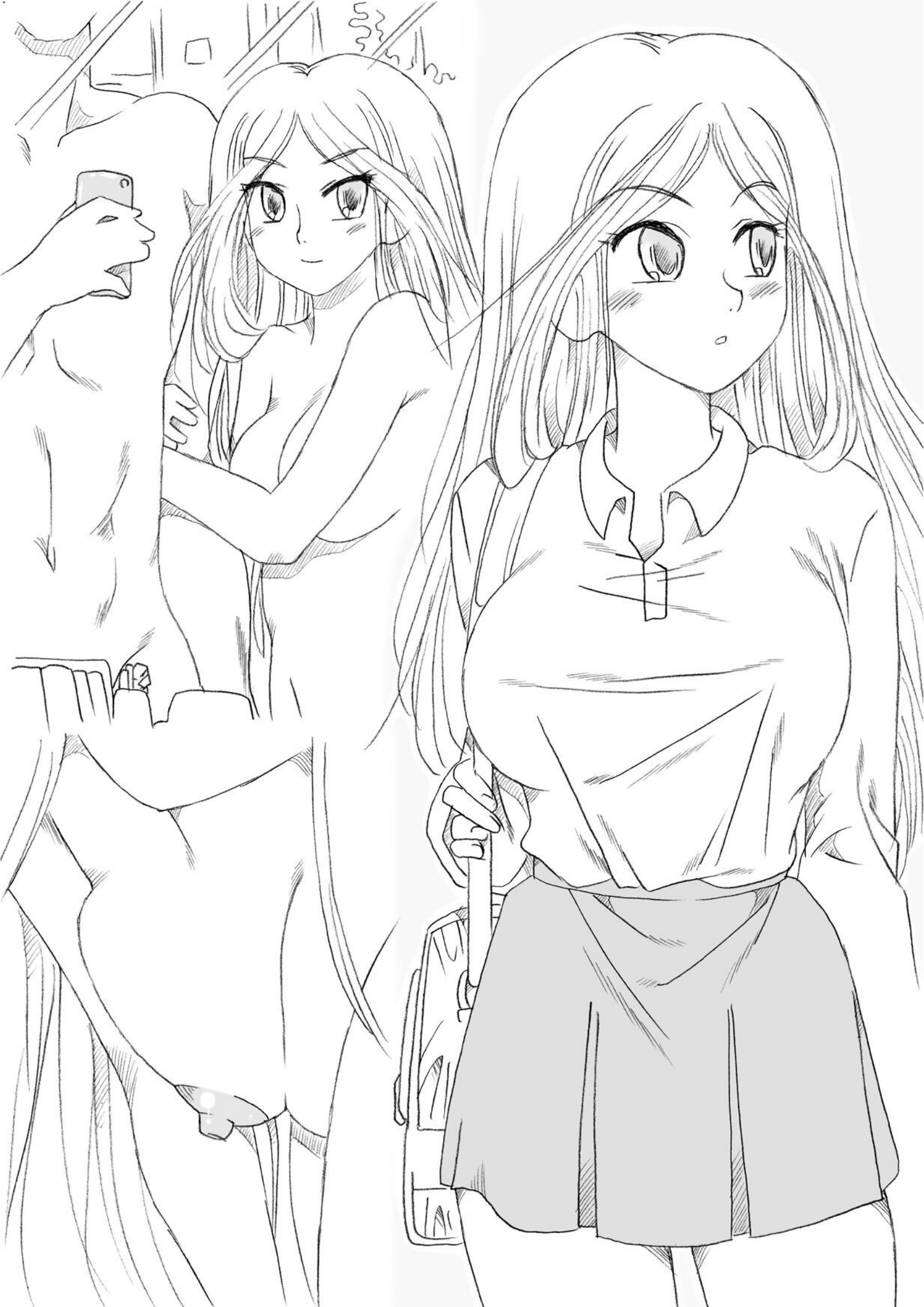














Reminder that translations are not only welcome,  
they are in demand!

提醒一下，不仅欢迎翻译，  
他们很抢手！

翻訳を歓迎するだけでなく、  
彼らは需要があります！

번역도 환영합니다  
그들은 수요가 있습니다!